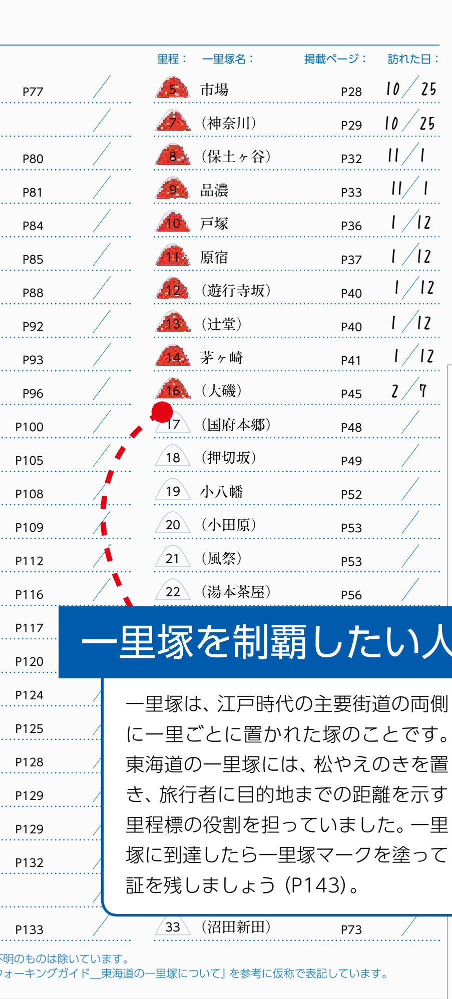
『ぬりつぶし「東海道五拾七次」の旅手帖』の使い方・楽しみ方

歩いたり自転車で走行した東海道の旅を、
心に残すお手伝いをする手帳です。

宿駅間ごとに**❶旧街道を示した白地図ページ　❷旅のいろいろを記録するノートページ　❸街道の見どころを解説した情報ページ**を用意しました。巻末には「ぬりつぶし一里塚」や旅の記録をまとめるページも設けました。旅のあとの日常に戻り、手帳の頁をめくれば、歩いた街道の風景が甦ってくることでしょう。ここでは、自分だけの一冊を作るための各コーナーの使い方を紹介します。



		里程：	一里塚名：	掲載ページ：	訪れた日：
P77	／	5	市場	P28	10／25
	／	7	（神奈川）	P29	10／25
P80	／	8	（保土ヶ谷）	P32	11／1
P81	／	9	品濃	P33	11／1
P84	／	10	戸塚	P36	1／12
P85	／	11	原宿	P37	1／12
P88	／	12	（遊行寺坂）	P40	1／12
P92	／	13	（辻堂）	P40	1／12
P93	／	14	茅ヶ崎	P41	1／12
P96	／	16	（大磯）	P45	2／7
P100	／	17	（国府本郷）	P48	／
P105	／	18	（押切坂）	P49	／
P108	／	19	小八幡	P52	／
P109	／	20	（小田原）	P53	／
P112	／	21	（風祭）	P53	／
P116	／	22	（湯本茶屋）	P56	／
P117					
P120					
P124					
P125					
P128					
P129					
P129					
P132					
	／				
P133	／	33	（沼田新田）	P73	／

明のものは除いています。
ォーキングガイド＿東海道の一里塚について』を参考に仮称で表記しています。

一里塚を制覇したい人は

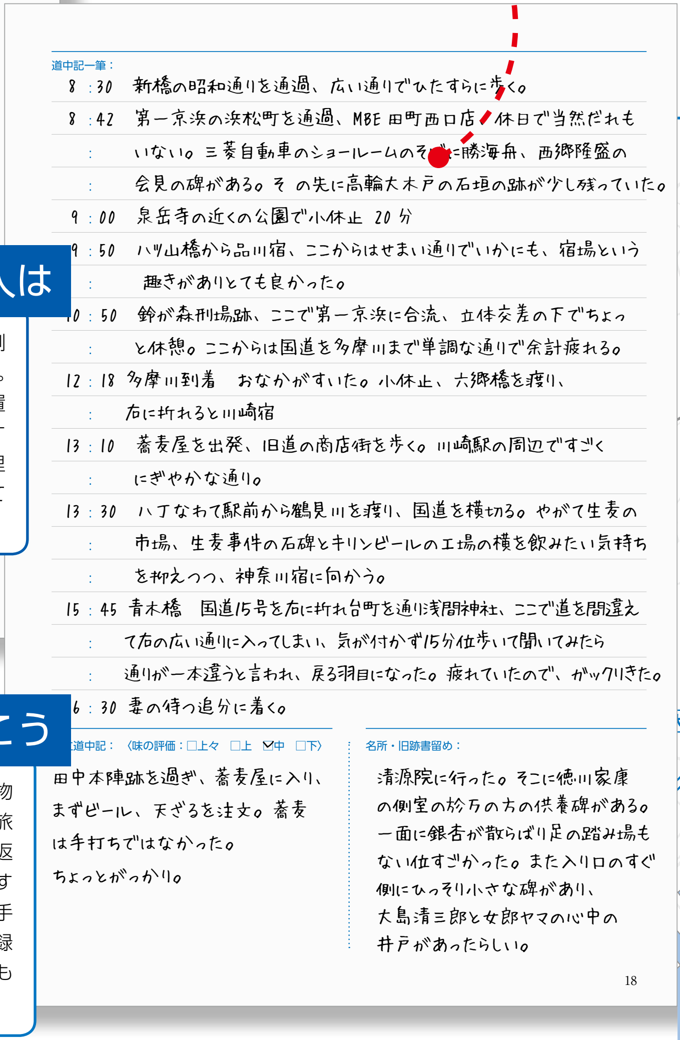
一里塚は、江戸時代の主要街道の両側に一里ごとに置かれた塚のことです。東海道の一里塚には、松やえのきを置き、旅行者に目的地までの距離を示す里程標の役割を担っていました。一里塚に到達したら一里塚マークを塗って証を残しましょう（P143）。

旅の資料を残しておこう

文化施設の入場チケットや拝観券、名物を食べたお店のカードなどを貼って、旅の思い出を残すのもよいでしょう。見返したときに、立ち寄った場所を思い出すきっかけになったり、次に行くときの手がかりにもなり活用できます。旅の記録を手書きで残すのは面倒だ、という人も貼るだけで簡単に記録できます。

自由に気楽に書き込もう

「道中記一筆」には、出会った風景や印象に残ったことなどを感じたまま自由に記録しましょう。時間の経過を記録しながら旅の記録をしたためるのもよいでしょうし、スケッチや写真を用いて街道の景色をのこすのもよいでしょう。「献立道中記」には旅先で食べた名物やランチの感想を、「名所・旧跡書留め」には印象深い場所について記しましょう。



道中記一筆：

8 : 30　新橋の昭和通りを通過、広い通りでひたすらに歩く。
8 : 42　第一京浜の浜松町を通過、MBE 田町西口店 休日で当然だれも
　 :　いない。三菱自動車のショールームのそばに勝海舟、西郷隆盛の
　 :　会見の碑がある。そ の先に高輪大木戸の石垣の跡が少し残っていた。
9 : 00　泉岳寺の近くの公園で小休止 20 分
9 : 50　ハツ山橋から品川宿、ここからはせまい通りでいかにも、宿場という
　 :　趣きがありとても良かった。
0 : 50　鈴が森刑場跡、ここで第一京浜に合流、立体交差の下でちょっ
　 :　と休憩。ここからは国道を多摩川まで単調な通りで余計疲れる。
12 : 18　多摩川到着　おなかがすいた。小休止、六郷橋を渡り、
　 :　右に折れると川崎宿
13 : 10　蕎麦屋を出発、旧道の商店街を歩く。川崎駅の周辺ですごく
　 :　にぎやかな通り。
13 : 30　ハ丁なわて駅前から鶴見川を渡り、国道を横切る。やがて生麦の
　 :　市場、生麦事件の石碑とキリンビールの工場の横を飲みたい気持ち
　 :　を抑えつつ、神奈川宿に向かう。
15 : 45　青木橋　国道15号を右に折れ台町を通り浅間神社、ここで道を間違え
　 :　て右の広い通りに入ってしまい、気が付かず15分位歩いて聞いてみたら
　 :　通りが一本違うと言われ、戻る羽目になった。疲れていたので、ガックリきた。
6 : 30　妻の待つ追分に着く。

道中記：〈味の評価：□上々　□上　☑中　□下〉

田中本陣跡を過ぎ、蕎麦屋に入り、
まずビール、天ざるを注文。蕎麦
は手打ちではなかった。
ちょっとがっかり。

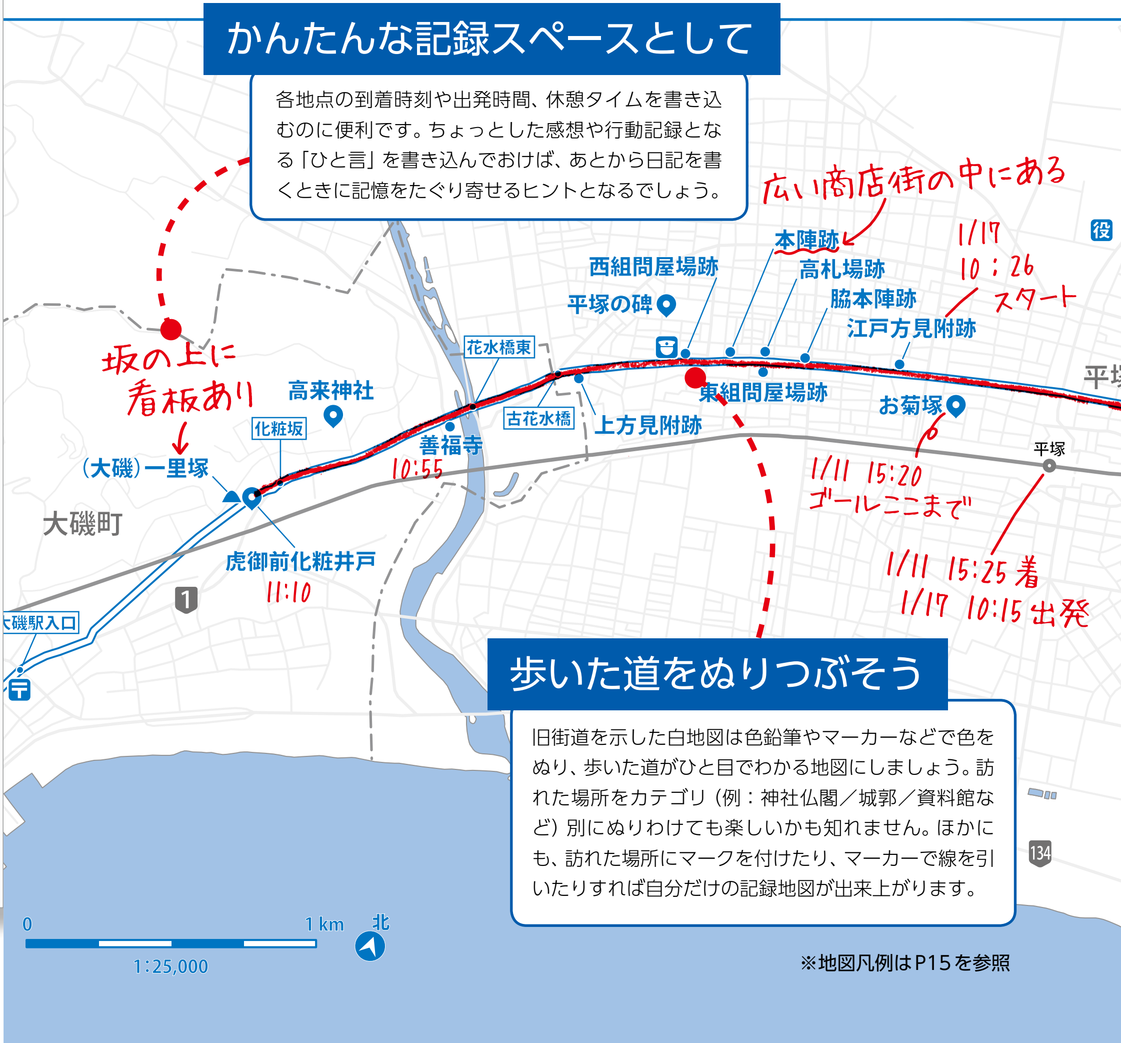
名所・旧跡書留め：

清源院に行った。そこに徳川家康
の側室の於万の方の供養碑がある。
一面に銀杏が散らばり足の踏み場も
ない位すごかった。また入り口のすぐ
側にひっそり小さな碑があり、
大島清三郎と女郎ヤマの心中の
井戸があったらしい。

18

かんたんな記録スペースとして

各地点の到着時刻や出発時間、休憩タイムを書き込むのに便利です。ちょっとした感想や行動記録となる「ひと言」を書き込んでおけば、あとから日記を書くときに記憶をたぐり寄せるヒントとなるでしょう。



歩いた道をぬりつぶそう

旧街道を示した白地図は色鉛筆やマーカーなどで色をぬり、歩いた道がひと目でわかる地図にしましょう。訪れた場所をカテゴリ（例：神社仏閣／城郭／資料館など）別にぬりわけても楽しいかも知れません。ほかにも、訪れた場所にマークを付けたり、マーカーで線を引いたりすれば自分だけの記録地図が出来上がります。

※地図凡例はP15を参照

※「宿場データ」の出典は『東海宿村大概帳』天保14年（1843）のもの